

2022年10月期

決算補足資料

正栄食品工業株式会社
(証券コード 8079 東証プライム市場)

目次

- 1) 2022年10月期実績
- 2) 中期経営計画

1) 2022年10月期実績

業績ハイライト

ShoEi

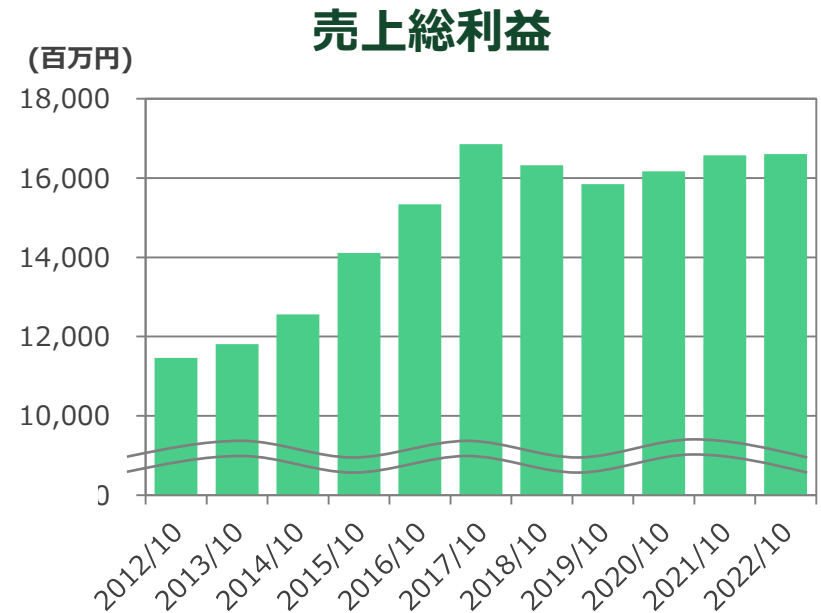
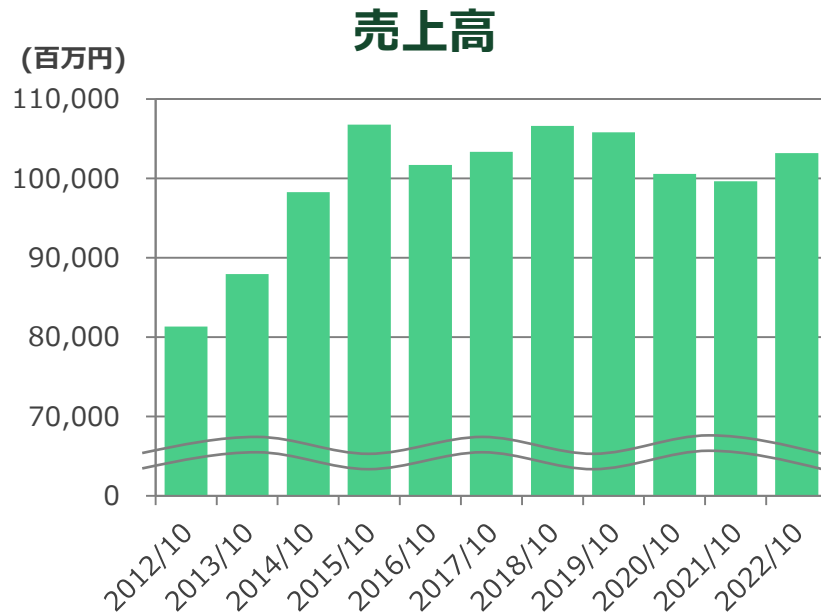
(単位：百万円)

	前期	当期		前期比	計画比
	実績	期初計画※	実績		
売上高	99,631	100,000	103,188		+3.1%
売上総利益	16,572		16,604	+0.1%	
営業利益	4,182	4,300	3,749	▲10.3%	▲12.8%
経常利益	4,279	4,350	4,095	▲4.3%	▲5.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,789	2,850	2,788	▲0.0%	▲2.1%
売上高営業利益率	4.1%	4.3%	3.6%		未達
ROE	6.6%		6.0%		

※ 2022年10月期の業績予想については、2021年12月13日に上記 期初計画に基いて発表した後、2022年6月13日付で営業利益3,500百万円、経常利益3,600百万円、親会社株式に帰属する当期純利益2,400百万円に修正しております。

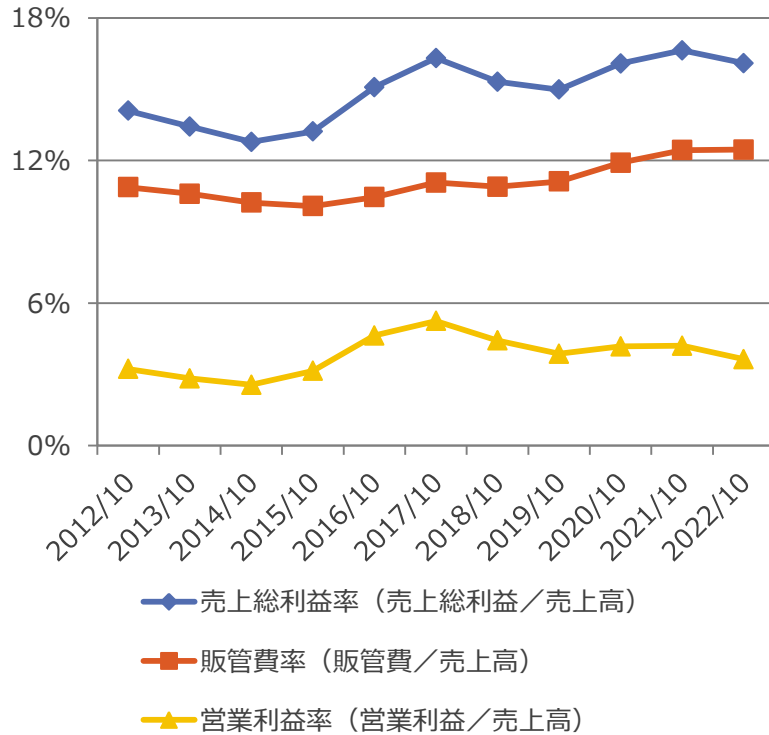
- ◆ 売上高は、今期から適用の収益認識基準の影響による売上減少要因がありましたが、日本での乾果実類や製菓原材料類の販売が好調であったことから、計画を3.1%上回りました。
- ◆ 利益は、米国事業の利益が好調に推移する一方、積極的に行ってまいりました新工場に係る減価償却費等の固定費の増加や原料価格上昇等により日本国内の利益が減益となったことから営業利益、経常利益は減益となりました。
- ◆ ROEにつきましては親会社株式に帰属する当期純利益はほぼ横ばいでしたが、円安により為替換算調整勘定（資本勘定）が増加したことから、大きく低下となりました。

業績推移 売上高と売上総利益

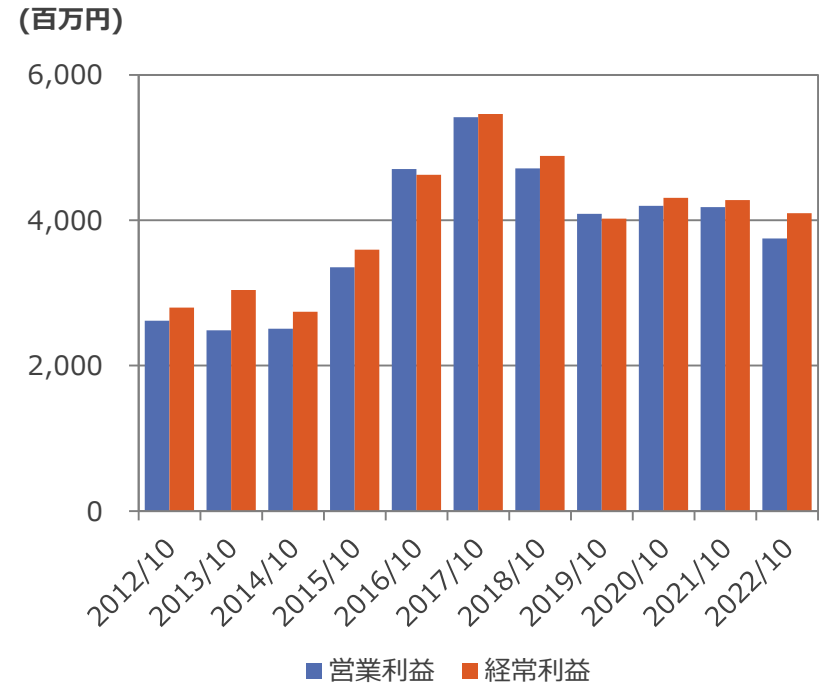
ShoEi

- ◆売上高：2019年から2021年で3期連続減収だったが増収に転じた。
- ◆売上総利益：売上総利益率が低下し、微増。

業績推移 利益推移



◆ 2022年10月期は売上総利益率と営業利益率は低下。販管費率は横ばい。

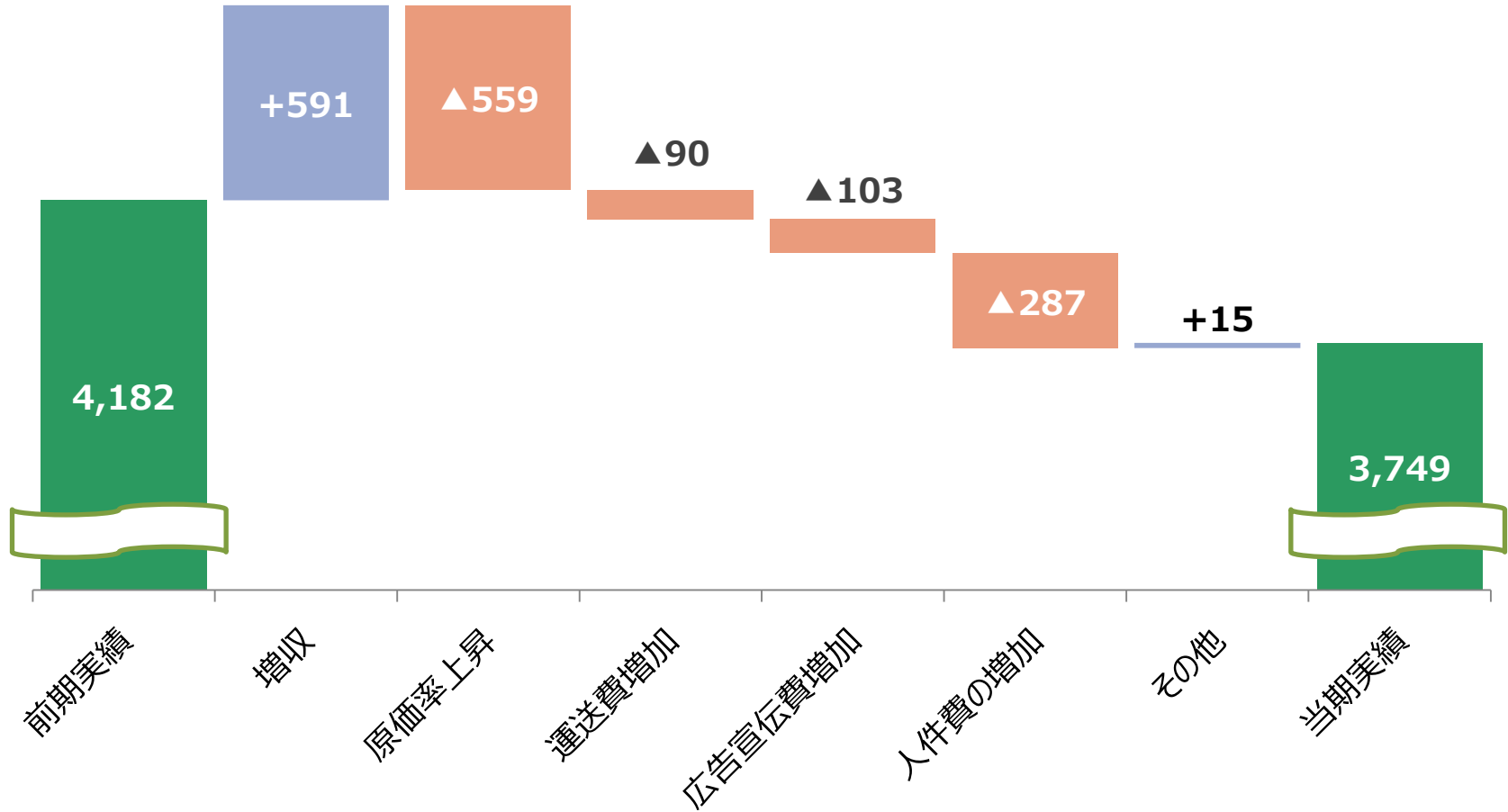


◆ 営業利益・経常利益はともに減益。

営業利益増減要因

ShoEi

単位：百万円



セグメント別の事業内容

ShoEi

日本 製菓・製パン業界を中心とした食品業界向けの食品原材料（乳製品、油脂、製菓材料、乾果実、缶詰、外食用食材等）の仕入れ、加工・製造、販売を主要業務としているほか、菓子類や乾果実類（ナッツ、ドライフルーツ）のリテール商品を製造して販売。国内に7工場を所有。

米国 SHOEI FOODS (U.S.A.), INC.

- ①乾果実類を米国内で仕入れ当社へ輸出
- ②クルミの仕入、加工、販売
- ③プルーンの仕入と販売
- ④プルーン・クルミの農園経営
- ⑤乾果実類の輸入販売



中国 青島秀愛食品有限公司
延吉秀愛食品有限公司

- ①製菓原材料類、乾果実類の加工・製造
- ②加工品、製造品の当社への輸出
- ③上海秀愛国際貿易有限公司や香港正栄国際貿易有限公司経由で中国・香港内での販売

上海秀愛国際貿易有限公司 (北京、深圳、天津、成都に事務所)

香港正栄国際貿易有限公司

- ①乾果実類を海外から仕入れ中国及び香港で販売
- ②青島秀愛食品有限公司、延吉秀愛食品有限公司で加工・製造した製品を中国・香港内で販売



事業セグメント別業績

ShoEi

(単位：百万円)

	売上高				セグメント利益			
	前期	当期	増減額	増減率	前期	当期	増減額	増減率
日本	91,785	93,513	+1,727	+1.8%	4,231	3,179	▲1,052	▲24.8%
米国	6,649	9,619	+2,970	+44.6%	512	1,105	+592	+115.7%
中国	6,498	7,767	+1,268	+19.5%	▲230	▲182	+48	
調整額	▲5,302	▲7,711	▲2,409		▲330	▲353	▲22	
合計	99,631	103,188	+3,557		4,182	3,749	▲433	▲10.3%

日本

- ◆ 売上高は、クルミ、アーモンド、マカデミア、ピスタチオなどのナッツ類、フルーツ加工品、業務用乳製品が好調であり、増収。
- ◆ セグメント利益は、積極的な設備投資による減価償却費等の増加、輸入原料価格の上昇等から、減益。

米国

- ◆ 主力のクルミ事業について、2021年産クルミの受入数量は減少したが単価が上昇したこと、またプルーンや松の実の米国内売上が増加となり、前年同期比での米ドル高もあり、増収。
- ◆ セグメント利益は、クルミの市場価格低下を反映した農家からの仕入価格の低下や生産効率の改善努力により、剥き身クルミの利益率が大きく改善。また、米ドル高による円換算額の増加もあり、増益。

中国

- ◆ 売上高は、中国産シード類の欧州等への輸出が増加し、香港でのナッツ・ドライフルーツ類の販売が好調であったこと、また人民元高による換算額の増加もあり、増収。
- ◆ セグメント利益は、香港での販売やナッツ加工品の中国内販売による増益要因はありましたが、日本向け輸出が減少となったことから、赤字が継続。

事業ポートフォリオ

ShoEi

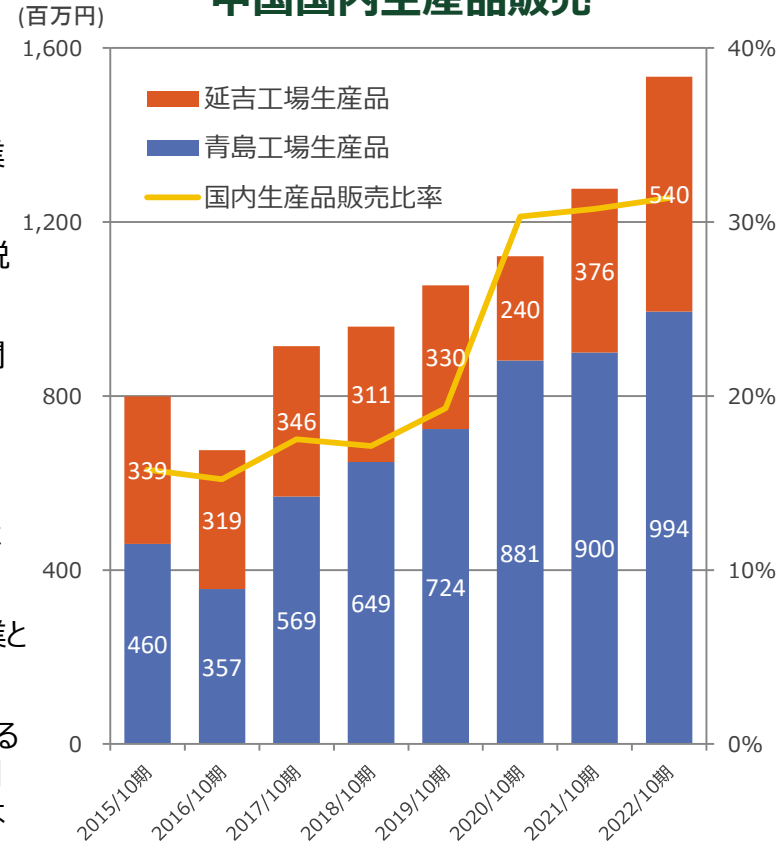
事業ポートフォリオに関する基本方針

- 当社事業は食品事業のみですが、対外的には事業セグメントとして、日本、米国、中国の地域別事業として3分割して事業の内訳を説明しております。
- これ以外に、当社事業の理解を深めていただく目的で、4品目別（乳製品・油脂類、製菓原材料類、乾果実・缶詰類、菓子・リテール商品類）での売上の状況についてご説明しておりますが、これらは事業としては密接に関連していることから、事業ポートフォリオとしては管理しておりません。
- 事業セグメントの状況については、決算短信、決算補足資料などの開示資料にて説明しております。
- 社内では、四半期決算時に業績進捗を確認することに加え、月次で業績動向に関する報告会を実施しており、見直しを実施しております。

事業ポートフォリオ見直しの状況

- 日本セグメントは当社の基幹ビジネスであり、セグメント別の業績にある通り、売上は順調に推移しております。
- 米国セグメントについては、売上・利益ともに順調に推移しており、継続すべき事業と考えております。
- 中国セグメントについては、3期連続で赤字継続となりましたが、コロナ禍の影響による欧州向け中国産シード類の輸出の不調や中国ゼロコロナ政策による国内市場の回復遅れなどが背景にあり、「世界の市場」として地位を高めている中国の国内需要は魅力的で食品市場も順調に拡大していることから継続すべき事業と考えております。当社は輸出向けビジネスから中国内向けビジネスに方向転換を図り、中国に保有する2工場を活用した付加価値商品の中国内販売に引続き力を入れて行きます。中国内向け商品開発に注力し、国内販売シェアの拡大を目標に取り組んでいきます。

中国国内生産品販売



品目別の主要取扱い商品

ShoEi

大分類	中分類	主な商品
乳製品・ 油脂類	乳製品	粉乳、練乳、液状乳製品、バター、チーズ、乳糖、ホエイ
	油脂類	製菓・冷菓・製パン用油脂（マーガリン類、ショートニング等）
製菓 原材料類	製菓材料	チョコレート加工品、フルーツ洋酒漬（ラムレーズン他）、メープルシロップ、フルーツフィリング
	栗製品	栗甘露煮、マロンペースト、マロングラッセ等
	和菓子材料	製菓用野菜、桜漬葉、柏葉、よもぎ、杏仁霜
	製パン材料	穀粉類（上新粉、もち粉他）、輸入米粉
	仕入商品	チョコ・ココア、膨張剤・ゼリー、蜂蜜・糖類、洋酒（リキュール類他）、抹茶、胡麻
乾果実・ 缶詰類	ナッツ	クルミ、アーモンド、マカデミアナッツ、松の実、パンプキンシード、ココナッツ、カシューナッツ、ヘーゼルナッツ、ピスタチオ
	ドライフルーツ	レーズン、プルーン、クランベリー、ブルーベリー、パイン、いちじく
	フルーツ加工品	リンゴ加工品、ミカン加工品、黄桃缶詰、マンゴー加工品
	業務用食材	パスタ、トマト加工品、デザート食材、スイートコーン
菓子・ リテール商品類	菓子	チョコレート菓子、ビスケット
	リテール商品	ナッツ小袋、プルーン小袋、その他ドライフルーツ小袋、野菜加工品

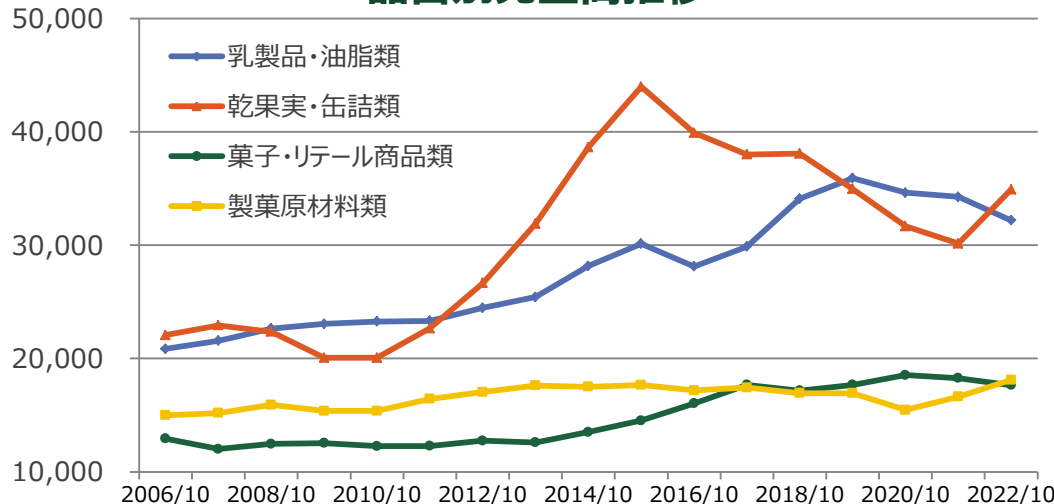
品目別売上構成

(単位：百万円)

	前期		当期		前期比	
	売上高	構成比	売上高	構成比	増減額	増減率
乳製品・油脂類	34,267	34.4%	32,186	31.2%	▲2,081	▲6.0%
製菓原材料類	16,635	16.7%	18,105	17.6%	+1,469	+8.8%
乾果実・缶詰類	30,143	30.2%	34,913	33.8%	+4,769	+15.8%
菓子・リテール類	18,264	18.4%	17,639	17.1%	▲624	▲3.4%
その他	319	0.3%	343	0.3%	+23	+7.4%
合計	99,631	100.0%	103,188	100.0%	+3,557	+3.5%

(百万円)

品目別売上高推移



乳製品・油脂類

◆ 輸入品を中心にバターなどの業務用乳製品の売上が増加し、好調な国内生乳生産を背景に余乳処理も増加しましたが、収益認識基準の導入による減収要因により、売上高は減少。

製菓原材料類

◆ マロンペーストを中心にした菓製品が好調に推移し、製菓用焼き菓子、フルーツフィリング、コンビニエンスストア向けなどの国内仕入品が堅調に推移。

乾果実・缶詰類

◆ 日本国内でクルミ、アーモンドなどのナッツ類やフルーツ加工品の売上が好調であり、また米国でのクルミの売上や中国でのナッツやドライフルーツの売上が増加。

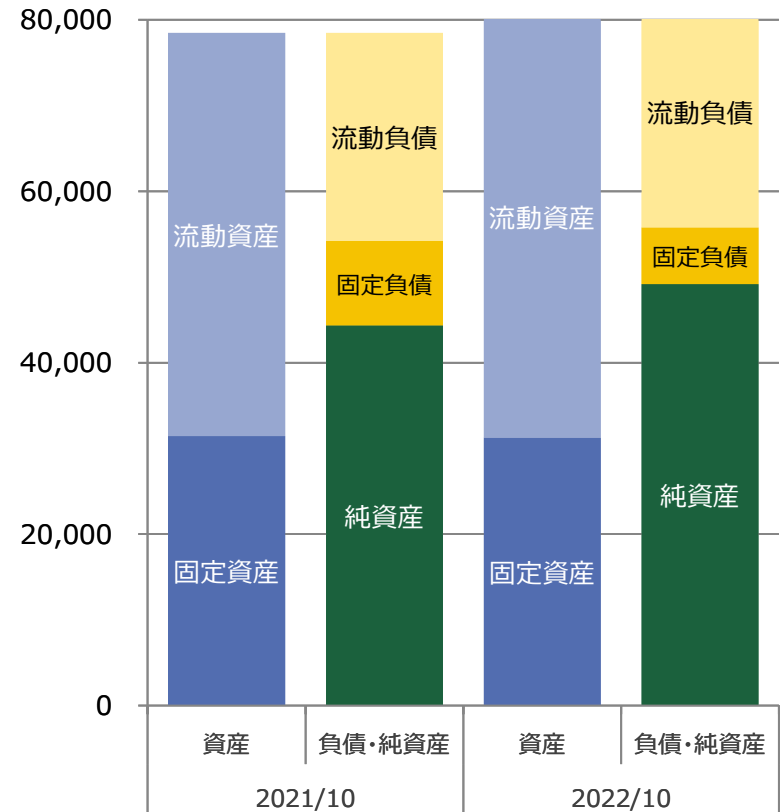
菓子・リテール商品類

- ◆ 菓子類については、菓ごもり需要の反動からコンビニエンスストアでのPB品の販売が減少となり、収益認識基準の影響もあり減収。
- ◆ ナッツやドライフルーツの小袋品についても菓ごもり需要の反動から売上減。

連結財政状況

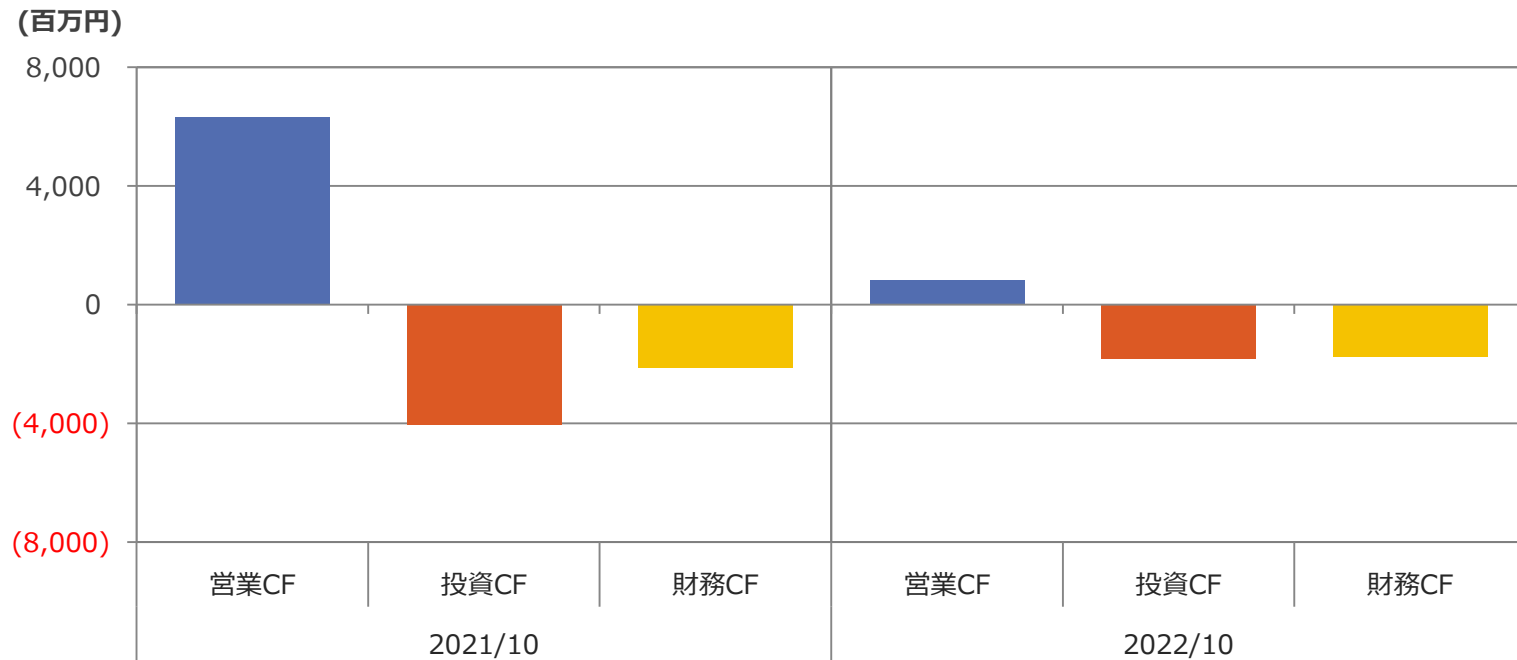
(単位：百万円) (百万円)

		前期	当期	増減額	
資産	流動資産	現預金	9,858	7,867	▲1,991
		受取手形及び売掛金	19,572	20,285	+712
		棚卸資産	16,419	21,380	+4,960
		その他流動資産	1,167	2,066	+898
	小計	47,018	51,598	+4,580	
	固定資産	有形固定資産	25,215	24,901	▲314
		無形固定資産	267	279	+11
		投資その他の資産	5,968	6,072	+104
	小計	31,451	31,253	▲198	
	資産合計	78,470	82,851	+4,381	
負債	流動負債	24,249	27,090	+2,841	
	固定負債	9,868	6,602	▲3,265	
	負債合計	34,117	33,693	▲424	
純資産	株主資本	40,863	42,865	+2,002	
	その他の包括利益累計額	2,653	5,406	+2,753	
	非支配持分	835	886	+50	
	純資産合計	44,352	49,158	+4,806	
負債・純資産合計	78,470	82,851	+4,381		
有利子負債	17,722	17,093	▲629		



- ◆ 棚卸資産が増加し、流動資産は増加。
- ◆ 利益の内部留保や為替換算調整により純資産が増加。
- ◆ 有利子負債は減少。

キャッシュフローの状況

ShoEi

- ◆ 営業キャッシュフローは棚卸資産の増加により減少したが、プラスを維持。
- ◆ 大型の設備投資は終了し、投資キャッシュフローのマイナスは減少。
- ◆ 有利子負債の減少により財務キャッシュフローはマイナス。
- ◆ 現金及び現金同等物は減少。

2) 中期経営計画

経営理念と企業ビジョン

ShoEi

経営理念： 私たちは、お客様に常に国内及び海外から厳選された安全・安心な食品を提供することで、新たな食文化を創造し、社会に貢献することを目指します。

ビジョン： 私たちは、新たな食文化の創造を通じて社会に貢献できるグローバルな企業グループを目指します。そのために、お客様の化するニーズに的確にお応えできるよう、原料調達、生産・加工、流通・販売という一貫した機能を強化してまいります。

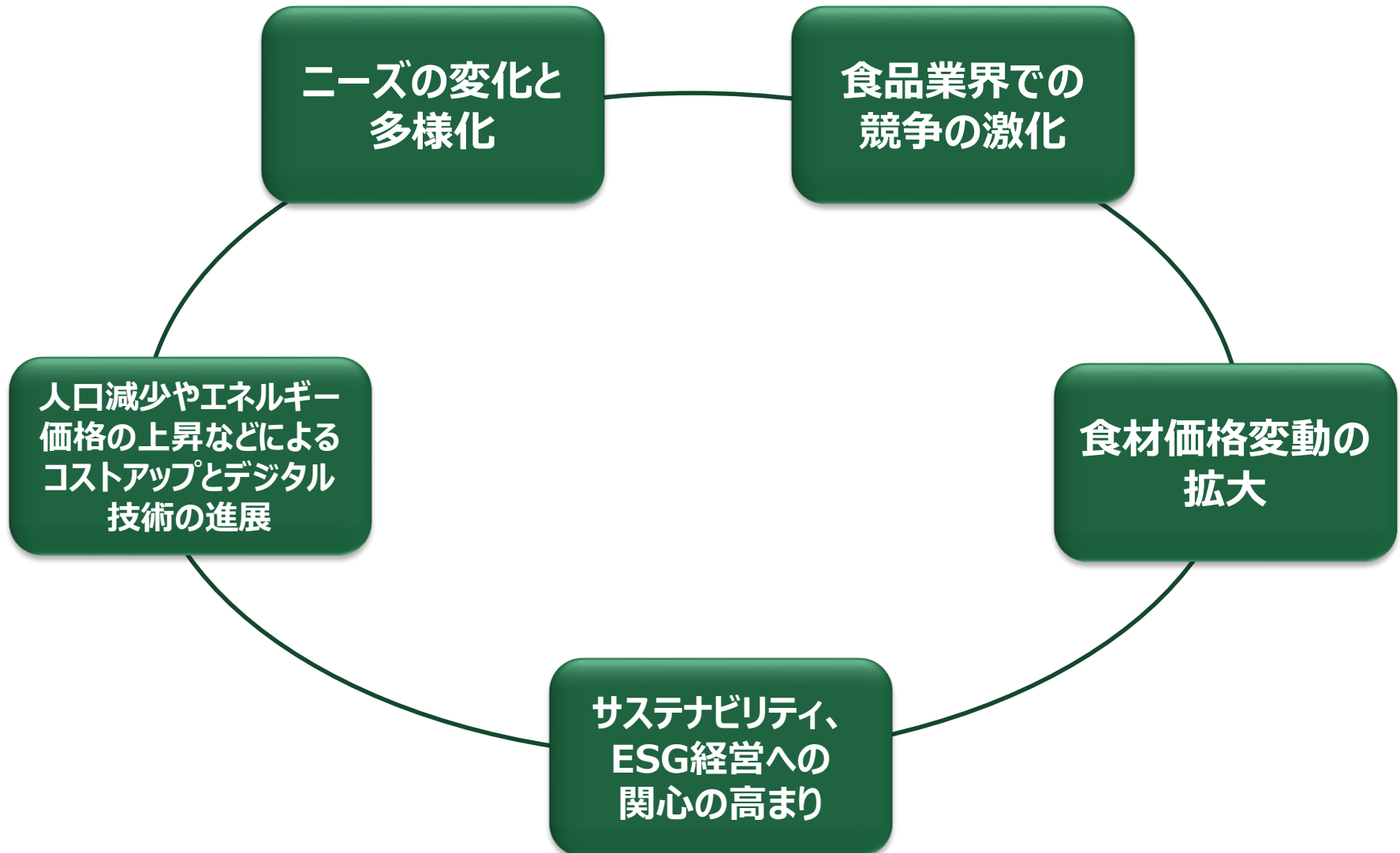
お客様

原料調達

生産・加工

流通・販売

経営環境と課題

ShoEi

経営戦略と施策

1. 国内営業基盤の拡充と商品提案力の強化

顧客基盤の拡充	新業態の開拓と新規取引先の獲得により、業態別顧客基盤の深耕と拡充を図るとともに、成長業態・成長ユーザーへの包括的活動を実施します。
提案営業力の強化とシェアアップ	主要得意先へ多面的な商談を行い、タイムリーな提案や自社商品の付加価値提案営業を強化します。また、工場研修や商品研修など、メーカーセールスのための教育カリキュラムを整備して営業力を強化します。

2. 商品品質と仕入管理の向上及び生産効率化の推進

新規仕入先や新規商品の発掘	新規仕入先や新規商品の発掘により、食材調達力を拡充します。取扱い商品の新用途提案や設備の充実による新商品開発に注力します。
仕入管理の向上	現地価格や為替相場動向に即したタイムリーな原料仕入、また需給を見据えた販売価格の設定により、在庫リスクや原価率の低減を図ります。
生産効率化の推進	生産工程の合理化・効率化の提案を継続し、生産管理のシステム化などにより、生産効率向上を図ります。
品質管理・保証体制の強化	製造実行システムMESの導入、安全衛生管理システムの年間運用に向けた取組、食品表示関連法規の改正への対応等により安心・安全な食品を安定的に提供できる体制を強化します。

3. グローバル展開の推進

中国ビジネスの採算改善	中国事業については、ビジネスモデルの再構築と現地採用を主体とした人材確保に注力し、目標管理の徹底実行にて確実な採算改善を目指します。
米国ビジネスの拡大と採算向上	米国事業については、引続き農家との関係強化による仕入数量の増加や製造工程の改善を図ります。

4. ESG経営の推進

環境対応、人権対応の推進	環境への配慮、社会貢献、公正・透明な企業運営などのCSR（企業の社会的責任）への対応を推進してまいります。エネルギー消費や食品廃棄物低減施策の具体化、仕入先の人権対応のCSR調査の実施、環境目標（CO2排出量削減目標）の策定に向けたデータの整備、ESGデータの作成及び開示に取組みます。
コーポレート・ガバナンス体制強化	コーポレート・ガバナンス・コードへの対応強化を図り、コーポレート・ガバナンス体制の一層の充実を図ります。取締役会の実効性向上や情報開示の充実を図っていきます。
リスク管理・コンプライアンスの高度化	リスク管理プログラムによるモニタリング等、全社的・多面的なリスクをより専門的に評価・分析いたします。反社会的勢力排除体制、インサイダー取引防止・食品関連法規などのコンプライアンス強化を図ります。自然災害の多発化に対応したBCP（事業継続計画）の実効性向上と関係会社への拡大に努めます。労働安全衛生への対応強化や海外関係会社での情報セキュリティ強化に取り組めます。

5. 経営基盤の強化

DXによる効率経営の追及	新規導入の業務システムの一層の活用を図り、全社的な業務フローの改善を目指します。受発注・出荷業務の改善や既存システムの見直しを検討します。データ伝送のEDI化への対応や流通BMIへの対応に注力します。
人的資源の充実と働き方改革への対応	人的資源の一層の充実のため、海外研修プログラムの策定やマネージャー教育の充実、IT人材の育成に努めます。人材の多様化（女性、中途入社、国籍）の推進とともに、人事評価制度のための新システム導入・安定稼働および勤怠管理の効率化を目指します。

2023/10月期業績予想

ShoEi

(単位：百万円)

	第2四半期			通期		
	当期実績	来期業績予想	増減率	当期実績	来期業績予想	増減率
売上高	53,242	52,000	▲2.3%	103,188	100,000	▲3.1%
営業利益	2,692	2,200	▲18.3%	3,749	3,000	▲20.0%
経常利益	2,819	2,200	▲22.0%	4,095	3,000	▲26.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,863	1,450	▲22.2%	2,788	2,000	▲28.3%
1株当たり当期純利益	110円72銭	86円12銭		165円63銭	118円78銭	

経営目標と株主還元方針

ShoEi

- ◆売上高に関しては、作柄や需要の変化を反映した現地価格の変動や為替相場の変動により、輸入食材の仕入単価が変動し、これを反映し販売価格も変動することから、販売量の増減とは別に売上高の増減要因となります。従って、経営指標としては、売上高よりも、売上総利益や営業利益での増益を主要な経営目標としております。
- ◆また、企業価値の持続的な向上を目指し、ROE（株主資本利益率）で8%を目指す方針としております。工場の新設などの設備投資を積極的に行っており、減価償却費の計上等により現在は8%を下回っておりますが、中長期的に8%の達成を目指します。
- ◆利益配分につきましては、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付け、安定的な配当を維持することを基本方針とし、また、中長期的な成長を実現するための事業投資と、内部留保の水準等を考慮して総合的に判断し、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。
- ◆当事業年度の配当につきましては、中間配当が1株につき24円、期末配当が1株につき24円、合計で48円の配当といたしました。次期の配当につきましても、中間配当が1株につき24円、期末配当が1株につき24円、合計で48円とすることを予定しております。

将来見通し等に関する注意事項

ShoEi

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。